

会員交流会～オンライン和菓子作り～

8月21日(土)

新型コロナウイルスの影響のため、Zoomを用いたりリモートで開催しました。
石川県にある行松旭松堂の「おけいこばこ」でお菓子作りに挑戦！
講師として、行松旭松堂7代目 行松宏展先生をお招きしました。

行松旭松堂
7代目
行松宏展先生

行松先生のお手本を見た後に、みんな一斉に黙々と作りました。
ひょいひょいと行松先生が作られるので「簡単なのでは…」
と、思いきや、なかなかうまくできず…アドバイスを受け、
それぞれの個性豊かな和菓子が出来ました。



この菓子鉢には
どんなお菓子が綺麗か？



先生のお手本中



干菓子の盛り方の一例

参加者が作った和菓子たち



余った餡でタコさんまで！



行松先生は今回のお菓子の作り方だけでなく、
お茶会時のお菓子の選び方や種類、菓子鉢・干菓子盆の選び方や盛り方、
更には経験談や裏話まで幅広く話して下さいました。
行松先生、貴重なお話とお時間をありがとうございました。

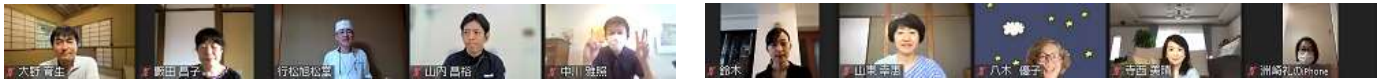
和菓子作りの後は、それぞれが作ったお菓子を
カメラに向け行松先生に評価して頂きました！！
自分で用意したお茶と作ったお菓子をみんなで楽しく
美味しく頂きました。大阪西青年部の交流行事としては初の
リモート開催でしたが本当にみんなで集まったかのような
交流会となりました♪+



優秀賞は
鈴木敦子さんです！
おめでとうございます



ご準備くださいましたみなさま、ご参加くださいましたみなさま、
楽しい交流行事をありがとうございます♪



幹事 西岡由佳

今までの交流行事は、美術館や神社仏閣を見学したり、お茶碗などの手作りに挑戦したりと、お茶会の緊張した雰囲気とは違った行事で、会員の素顔もみられるものでした。参加者も多く、毎年どんな行事が開催されるのかワクワクする行事の一つでした。私は今年度幹事を仰せつかり、役員の皆様と青年部の運営に携わっておりますが、今回はコロナ禍でどう開催するか？開催してもいいのか？と、とても悩んだのを覚えています。世の中の状況が大きく変化する中、何度もスタッフ会議で意見を交換しての開催となりました。はじめてのリモートでの開催でしたが、当日まで部長をはじめ講師である石川県の行松先生ともZoom会議を行い、事前リハーサルを行うなど綿密に準備を行うことで無事に終わることができました。お茶会など行事の中止が続いていましたが、画面を通して皆様が笑顔で参加して下さること、そしてとても楽しく行事を終えられたことがなによりうれしかったです。また、行松先生と石川県から繋がるなんて本当に不思議な感じでしたが、皆で繋がり、一つの事を一緒に行うことの楽しさを改めて実感しました。今後も青年部や行事のあり方が変化していくかもしれませんが、その時にできるやり方を共に考え、青年部らしい柔軟なアイディアで活動していきたいと感じました。

ボランティア・交流委員会 米原千津子

体験キット「おけいこぼこ」が届き、お手紙や説明書などすべてに行松旭松堂さまの心がつまっていて、箱をあけたときからワクワクがはじまりました。コロナ禍の厳しい状況の中でご家族一丸となって生み出した「おけいこぼこ」のエピソード、全国委員長などを歴任されたご自身の体験からの青年部活動の魅力などのお話がありました。更には茶席のお菓子注文の際のヒントなど、席主として水屋で役立つことなどもわかりやすく楽しくお話いただきました。また、丁寧なご指導のもと和菓子作り体験では、うまくいかない点などを先生にアドバイスいただき取り組みました。出来上がったお菓子披露と自己紹介コーナーではみなさんの人柄を感じることができ、またご家族で参加された方もありほほえましく思いました。できたてのお菓子とお茶をいただきながら、画面越しではありますが、久々に西青年部のみなさんとひとときを共に過ごすことができたことを嬉しく思いました。茶席のお菓子は人と人をつなぎ、「五感+心」にも響くことを改めて感じた、楽しく素敵な交流会でした。企画、運営などご尽力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

総務・広報委員会 矢本浩教

和菓子を作るのも初めてなら、リモートでのお菓子作り体験も初めてでした。行松先生のご指導の下、楽しく作ることができました。また、元々次男と一緒にしようと2人分のお菓子を届けてもらったのに、友達が遊びに来たので残ってたのですが、行事終了後に長男の夏休み自由研究に生かすことができました。長男曰く『見本と俺が作ったやつは味は一緒やけど、俺のは見た目が悪いから売れへんやろな』という研究成果とのことです。設営いただいた皆様ありがとうございました！

